

## 「解答例」

選抜区分	2023年度 (選抜区分：一般入試 前期) 文学部 比較文化学科 (科目名：総合問題)
問題Ⅰ (解答例)	
問1 しかし近年では世界中のメディアが、街中にやってくる野生動物の数が増え続けていることについて、多くのレポートを行なっている。	
問2 絶滅危惧種であるヒヒを守りつつ、人間とヒヒとの間の揉め事を最小限にしようと、ヒヒを街の外に追い立てたり、捕えて自然に放したりする方策は、ある程度まで成功したものの、街に行けば簡単に食料が手に入ることを知ったヒヒが戻ってくるのを防ぐのは難しいことが明らかになっている。	
問3 食料を求める豚が郊外に来て、庭や公園を掘り返したり交通事故を起こしたりしているにもかかわらず、住民の中には豚を歓迎し、エサを与えるものもいる。	
問4 豚が入ってこないようにフェンスを作り、豚にエサを与えることを違法とする方法が機能するかどうかは現時点では不明だが、冬が暖かくなっているため豚の数は以前より増えており、見通しは明るくない。	
問5 地下鉄の乗客は、今では車内に犬がいることにすっかり慣れてしまったので、犬は地元の人間にほとんど気づかれないまま移動している。	
問6 うまくいけば、市当局と市民が一緒になって、大型動物を傷つけずに市外にとどめておく独創的な方法を考え出すことができるだろう。	
問題Ⅱ (解答例)	
(1) It seems that many people who like Osamu Dazai have a sense of why he knows my personal things.	
(2) Then a wind blew in my mind and silence fell.	

## 「解答例」

選抜区分	2023年度 (選抜区分：一般入試 前期) 文学部 比較文化学科 (科目名：総合問題)
問題Ⅲ (標準的な解答例)	
問一 「個人」という日本語は、「(もうこれ以上) 分けられない」という意味の <b>individual</b> の翻訳だが、その原義はバラバラには分けられない人間の身体に関しては当てはまるものの、接する人によって態度を変える私たちの人格については当てはまらないように思える点。(126字)	
問二 多くの人が唯一無二の「本当の自分」という神話にとらわれているため、相手との反復的なコミュニケーションを通じて自分の中に形成されてゆく「分人」を、無理強いされた「ニセモノの自分」と感じてしまい、メディアが発達し、人間関係がますます複雑化する中で、誠実な人間の生き方や対人関係の構築の仕方がわからなくなっているから。(156字)	
問題Ⅳ (正答と標準的な解答例)	
問一 (正答) ① 網羅 ② 勾配 ③ 市井 ④ 津津 (津々) ⑤ 露呈 ⑥ 逆鱗 ⑦ 浸透 (滲透) ⑧ 脚立 ⑨ 破綻 ⑩ 堆積	
問二 (標準的な解答例) 小学校の同級生とくしくも再会する。 2人はくしくも同じ日に世を去った。	
問三 (標準的な解答例) 弱者や薄幸の者に同情し、味方したり応援したりすること。	